

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	建築学概論						授業形態		講義	
科目コード	237710	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	岡島 直方								ICT活用	
授業概要	本講義は、環境園芸（造園）を学ぶ者にとって知っておくべき日本建築の成り立ちと、それを支える文化的原点を学ぶ。縄文時代の造形美から、伊勢・出雲等の神社空間、および記紀編纂と連動した「国家のアーキテクチャ」の成立までを紐解く。さらに、西洋の産業革命以降のモダニズム建築（ル・コルビュジェ）や現代建築（安藤忠雄等）への展開を比較考察する。「建築」と“architecture”の概念の違い（アルケーとテクネー）を探索し、空間や環境を立ち上げる本質的な意味についての視野を広げることを目的とする。									
関連する科目	建築は庭園との関わりが深いので「世界の庭園と歴史」の授業を受講してあることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	講義形式を中心に、図面・写真・映像資料等を使用する。講義中には文献を読み解くグループワーク（アクティブ・ラーニング）を取り入れ、対話を通じて批評的思考を深める。そのため、授業では一定量の文章を読み、その内容について考えることが求められる。授業の終わりには要点の整理や小テストを実施し、期末には自発的な文献調査に基づく課題レポートを課す。板書など知識の伝達においては、内容をノートに記録する必要がある。建物の図をかくこともある。									
授業計画 【第1回】	1. ガイダンス：建築学の体系と資格（造園との関わり） 工学部建築学科における学びの体系や建築士等の資格制度に触れつつ、環境園芸学科（造園）で建築学を学ぶ意義を整理する。									
授業計画 【第2回】	2. 日本における建築学の始まりと近代高等教育 明治期の工部大学校をはじめとする近代建築教育・研究の発足と、それが大学制度へ編成されていった歴史的経緯（「造家」から「建築」へ）について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	3. 建築と“architecture”の思想史（グループ演習） 「建築」という和訳の限界と本来の“architecture”の概念を比較検討する。神谷武夫氏の文献を元にグループ演習を行い、アリストテレスの「アルケー（原理・統御）」が持つ多義性や政治性について批評的に議論する。									
授業計画 【第4回】	4. 原始時代の建築とデザイン（縄文時代） 縄文時代の集落構造や竪穴住居、土偶・土器に見られる造形デザインを考察する。従来のイメージを超えた高度な集落形成や自然観、豊かな造形美に触れ、日本の空間表現の原点を学ぶ。									
授業計画 【第5回】	5. 高床建築と弥生・古墳時代の空間 穀物倉庫としての高床建築の構造や形式を学び、それが後の伊勢神宮をはじめとする神社建築のデザインへと繋がっていくプロセスを考察する。									
授業計画 【第6回】	6. 伊勢神宮の建築美と「式年遷宮」の時間観念 高床構造が伊勢神宮（唯一神明造）へ至る意匠・構造的プロセスと洗練された「形式美」を学ぶ。さらに、20年に一度作り直す「式年遷宮」という日本独特の空間維持システムと時間観念（アーキテクチャ）を統合的に考察する。									
授業計画 【第7回】	7. 伊勢神宮と日本神話の空間観 伊勢神宮の祭祀と神話の背景を紐解く。民族の根底にある神話的思考（アルケー）が、いかにして建築や空間配置のあり方に影響を与えているかを考察する。									
授業計画 【第8回】	8. 出雲大社と「国譲り」の物語 出雲大社のデザインと神話（国津神の物語）の関係を学ぶ。伊勢（天津神）と出雲（国津神）の対比を通じて、異なる神話性が生み出す空間表現の違い（垂直性と水平性）を理解する。									
授業計画 【第9回】	9. 古代日本の政治体制と「国のアーキテクチャ」 推古・天智・天武・持統天皇の時代における国家形成と、神まつりの場の公認・整理について学ぶ。『古事記』『日本書紀』の編纂と連動し、神社境内や国家の骨格がまさに「一つのアーキテクチャ」として構造化されていくプロセスを紐解く。									
授業計画 【第10回】	10. 西洋の産業革命とモダニズムの思想的転換（ロース） 産業革命以降の新素材（鉄・ガラス）の登場と、アドルフ・ロースの『装飾と犯罪』（1908年）を取り上げる。過去の歴史的装飾を否定した思想的背景と、近代モダニズムへの倫理的・思想的転換について考察する。									

授業計画 【第11回】	11. ル・コルビュジェとメディア戦略・機能美の体系化（期末レポート説明） 雑誌『エスプリ・ヌーヴォー』やパリ万博での展示など、自らの思想をメディアや展覧会を通じて発信・拡散したル・コルビュジェの戦略と「近代建築の五つの要点」を読み解く。併せて期末レポート課題について説明する。
授業計画 【第12回】	12. 展覧会・ドローイングとアンビルドの建築（磯崎新、チュミ、ホール等） 磯崎新の「アンビルド（未構築）」やチュミ、ホールらのドローイング/CAD思考を考察する。現実の施工を超えて、「展覧会」や「ドローイング」という表現手段を通じて社会に思想を問いかけ、空間を構造化（architecture）する現代のあり方を紐解く。
授業計画 【第13回】	13. 発想としての環境・建築（エミリオ・アンバツと屋上緑化） エミリオ・アンバツのMoMAでの展覧会やポエティックなドローイングを取り上げる。メディアを通じた概念提示（アンビルドのアプローチ）が、やがて「アクロス福岡」などのリアルな屋上緑化・環境デザインへ実作化されるプロセスを考察する。
授業計画 【第14回】	14. 建築とアーキテクチャの多角的な振り返り（安藤忠雄等） これまで学んだ古代日本の国家・神話空間から、西洋モダニズム、アンビルドや環境デザインまでを総合的に振り返る。安藤忠雄らの空間観も交えつつ、政治・社会構造・文化・自然環境といった“architecture”が持つ多面的な意味合いについて考察する。
授業計画 【第15回】	15. 全体のまとめとディスカッション 全14回の内容を総括し、各自が期末レポートで取り上げる予定の「建築史における重要事象」や「選んだ図書館文献」についてグループで意見交換を行う。
授業の到達目標	建築学の専門分野で造園と異なる特徴となっているのは、言語表現によって建築の意味を伝えていく活動である。本授業においては、建築における基本的知識の習得、建築要素の名称、用語を覚える。【専門分野の知識・理解】 また建築空間を見て、自分の感じることを文章として書くことが求められる。自分の考えをまとめる能力を養いたい。さらに、取り扱い範囲の日本建築の特徴を他者に説明できるようになることに目標をおく。フリーハンドで描けることも大切である。【課題発見・分析・解決力】【高度な専門力】
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	次回授業のテーマを予告するので、それについて調べてまとめておく（30分程度）
授業時間外学習【復習】	その日の授業に関連することを調べ、まとめる。（30分程度） 宿題が出た場合にはそれに取り組む。
課題に対する フィードバック	語句などを記憶を確認する小テストがある。小テストは解答を示す。
評価方法・基準	小テスト・授業内ワーク・平常点：30点／期末レポート：70点
テキスト	資料は授業中に配布する。
参考書	以下のものは、より深く学びたい学生への情報です。 日本建築学会編(2011)『日本建築史図集』彰国社、建築の図面、写真などを集めた書籍。 □ 井上充夫(1953)『日本建築史』理工図書、古いですがよくまとまっています。 伊藤ていじ(1988)『日本デザイン論』鹿島出版会、建築デザインを論じて展開しています
備考	本科目は、科学教育の中では語られることの少ない「神話とそのニュアンスと建築とのつながり」を読み解いたり、建築と関わりのある絵画・彫刻・伝統的祭り等の紹介、ならびに近代・現代建築との比較を通じて、履修者の認識の世界を広げることを目的としている。上で示した計画書通りではなく、少し遅れることがありうる。